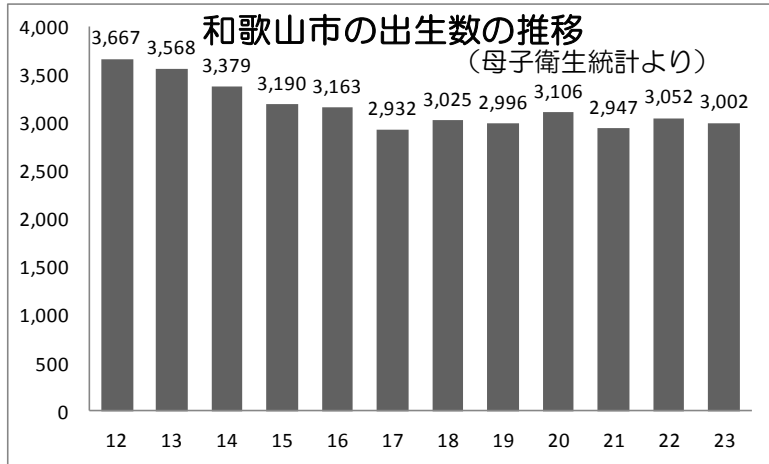
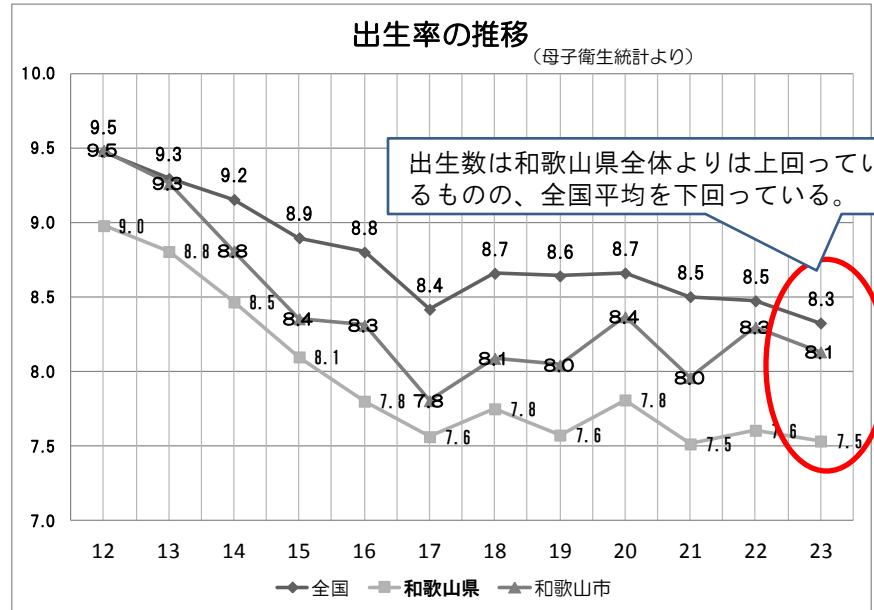


# 和歌山市の 就学前児童に関する現状

# 和歌山市の就学前児童に関する現状について

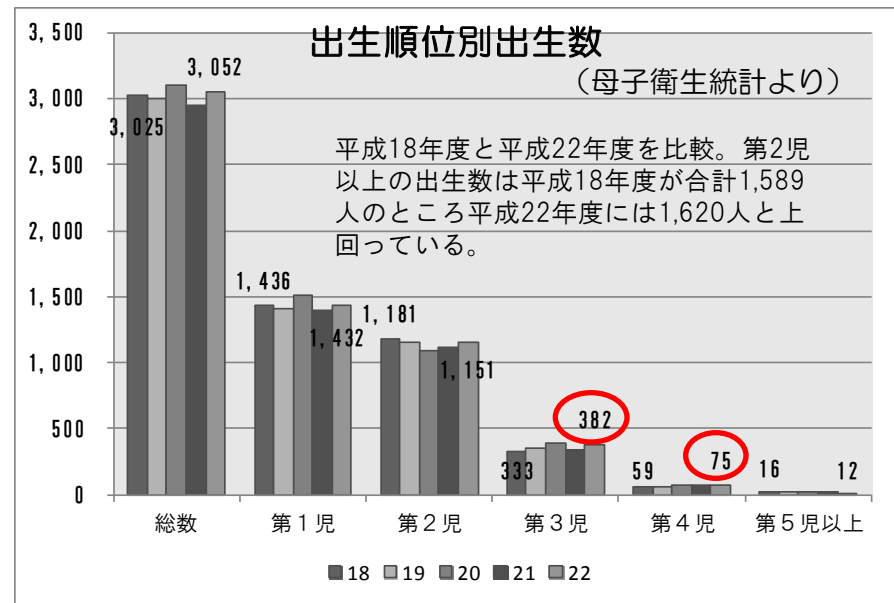
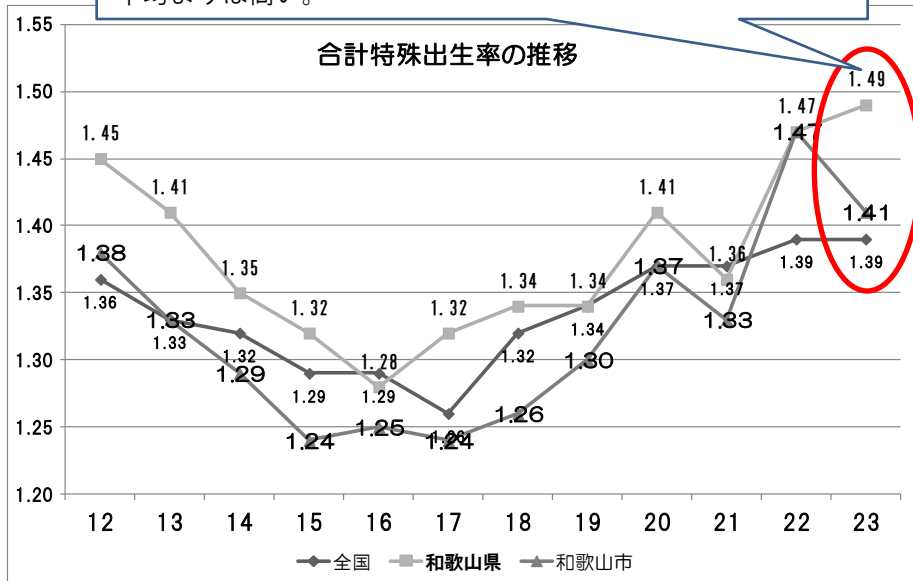


平成12年以降減少傾向にあったが、平成17年に下げ止まり、その後3,000人前後にて推移している。

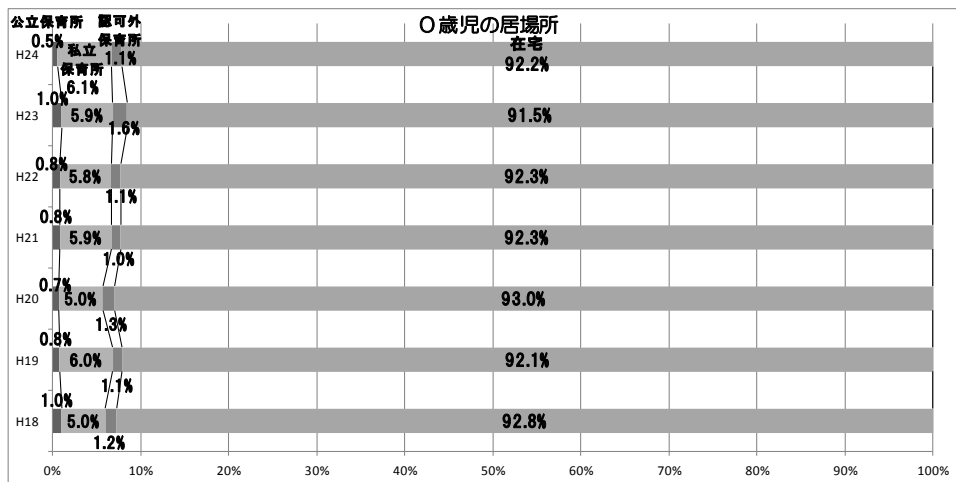


出生数は和歌山県全体よりは上回っているものの、全国平均を下回っている。

一人の女性が一生に産む子供の平均数を示す合計特殊出生率は、全国的に上昇傾向にあるが、人口を一定の規模で保持する水準（2.08前後）を大きく下回っている。和歌山市は全国平均よりは高い。

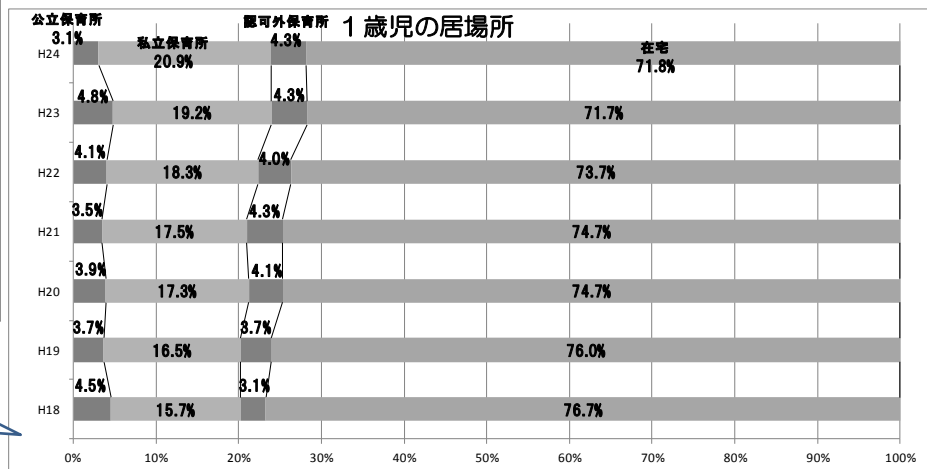


# 和歌山市の就学前児童に関する現状について

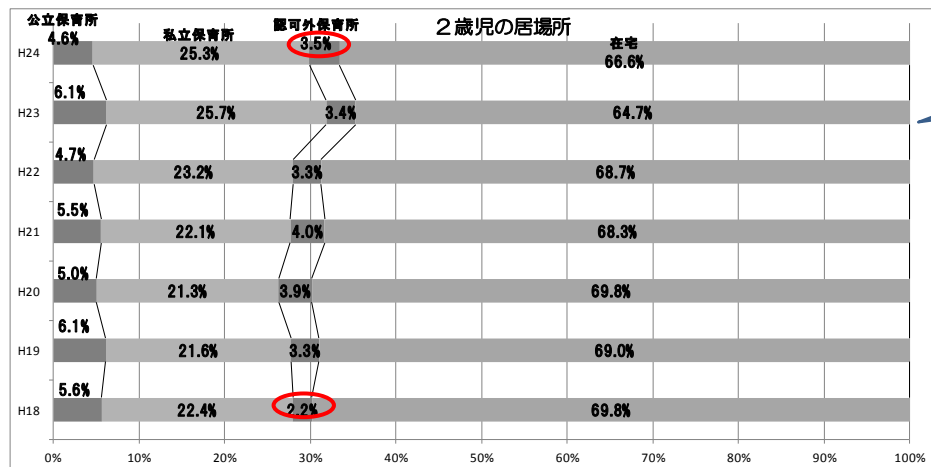


0歳児は平成18年度から平成24年度にかけて、大幅な変化もなくほぼ『在宅』（H18年度:92.8% → H24年度92.2%）

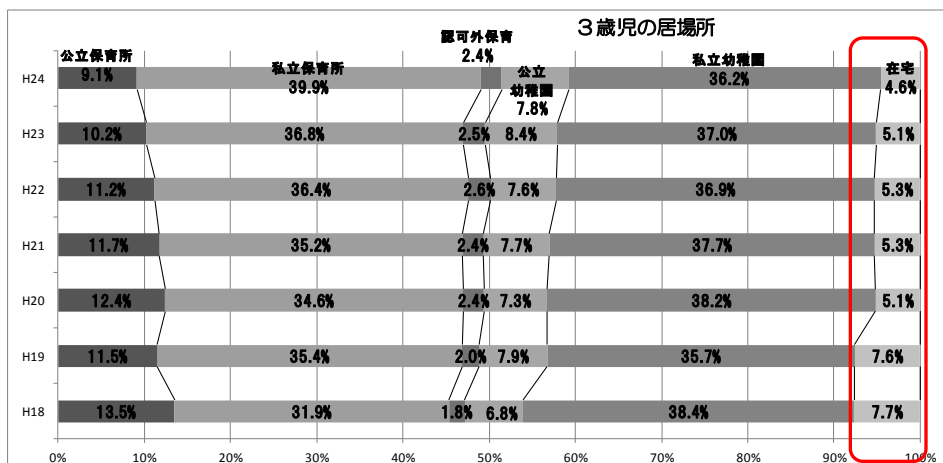
平成18年度から平成24年度にかけて、1歳児の保育所入所が増加。  
23.3%→28.2%



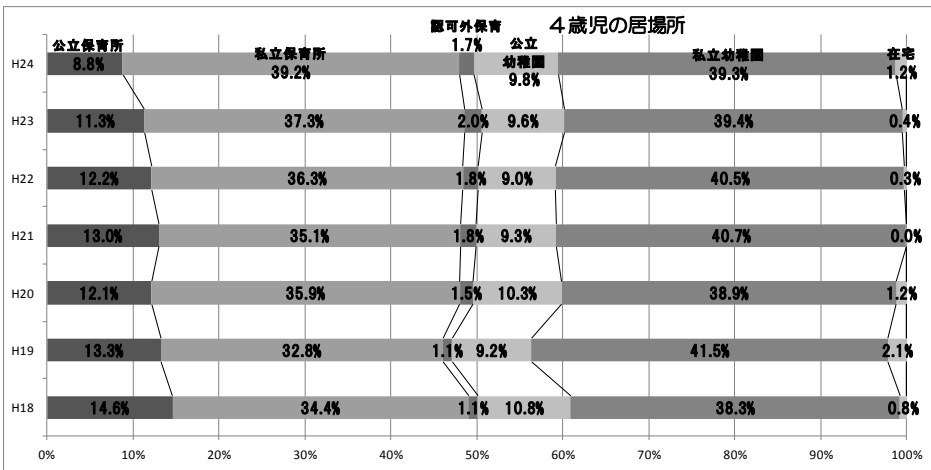
2歳児の保育所入所も微増。30.2%→33.4%  
1歳児同様、認可外保育所の利用も増えている。



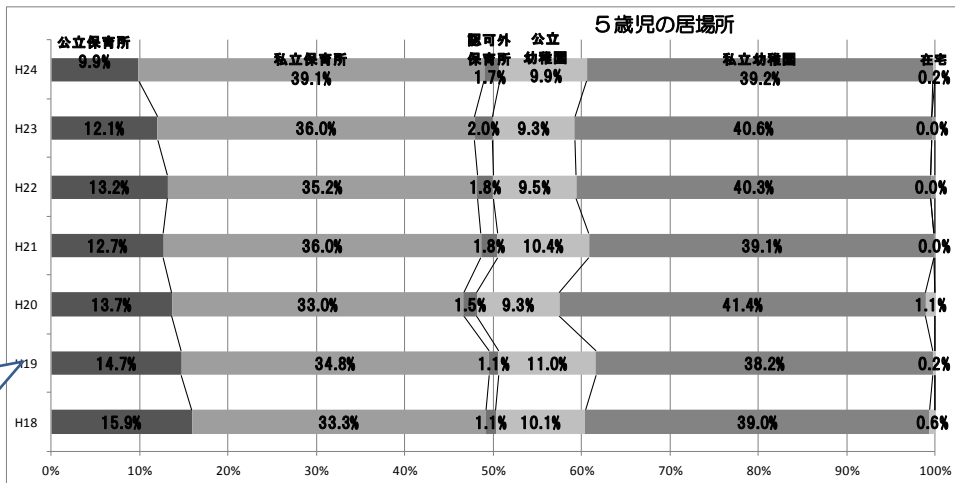
保育所民営化により、公立保育所の利用は減。ただし、保育所全体としての利用については増加。47.2%→51.4%。  
幼稚園の園児割合も若干減。在宅児童も減少している。



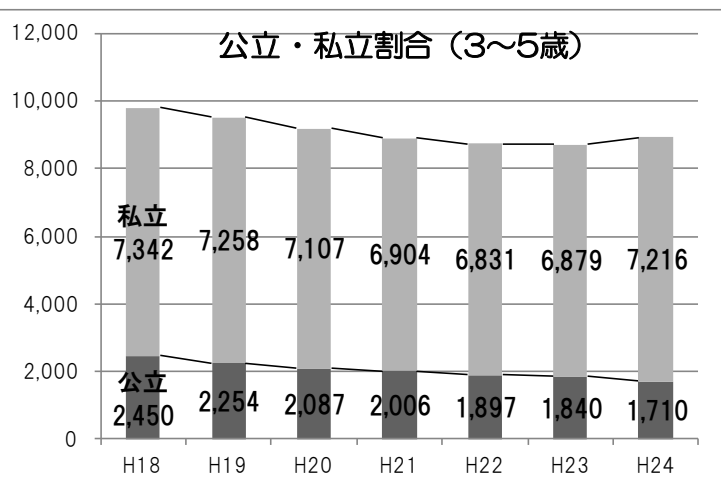
# 和歌山市の就学前児童に関する現状について



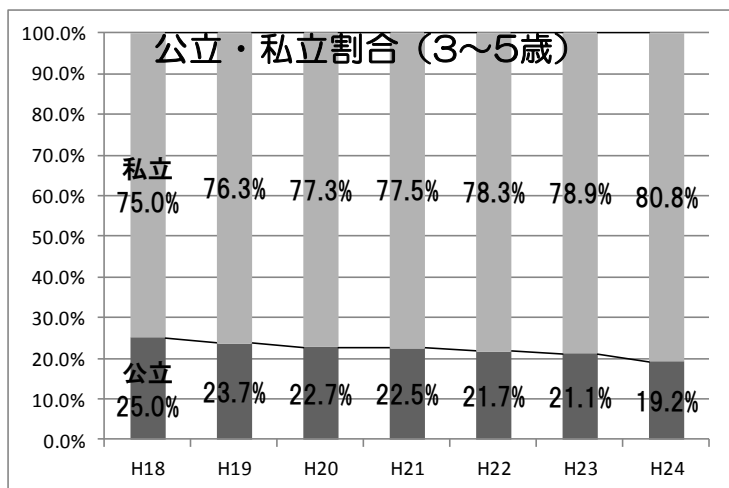
保育所に通っている子ども、幼稚園に通っている子どもの割合はほぼ同じ。(平成19年度の保育所利用割合の減少は理由不明)



5歳児についても、保育所に通っている子ども、幼稚園に通っている子どもの割合はほぼ同じ。  
ほとんどの子どもが保育所又は幼稚園に通っている。  
(前述したとおり平成19年度に4歳児だった子どもが5歳児になったことにより、平成20年度の保育所利用割合減少という事象が出ているが、同じく理由不明。)



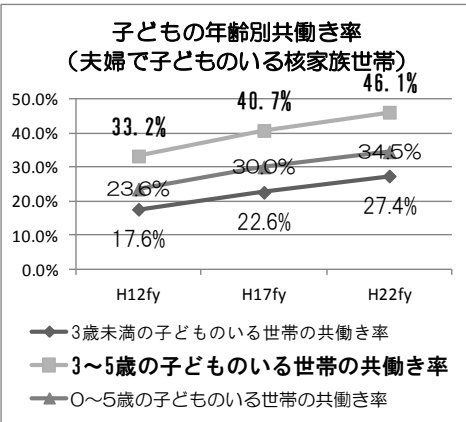
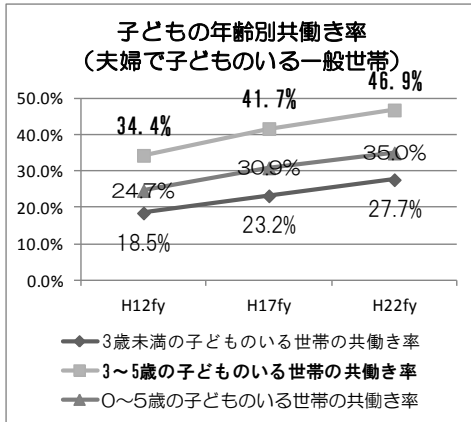
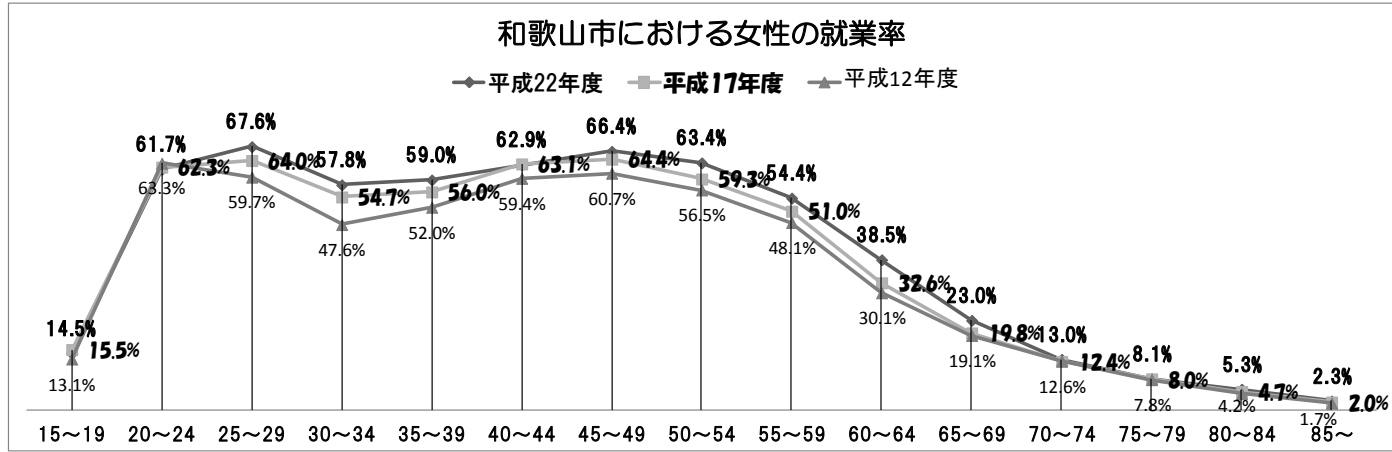
公立保育所の民営化が進み、和歌山市では私立施設の利用割合が増えている。



# 和歌山市の就学前児童に関する現状について

和歌山市における女性の就業率については、全体的に上昇している。特に平成12年度と比較して25～29歳については7.9%、30～34歳では10.2%、35～39歳では7.0%といずれも増加しており、“女性の就業率のM字型カーブ”が緩やかになっている。

(この事象の要因については、昨今の女性の晩婚化・未婚化も大いに影響していると考えられる。)



子どものいる夫婦世帯において、一番下の子どもの年齢別に共働き率を見てみると、どの属性においても平成12年度から大幅に増加している。特に一番下の子どもの年齢が3～5歳の家族においては、約半数の家族で共働きとなっている。

個別に発達相談については、保健所における個別相談の回数が大幅に増加しており、初診・再診の件数についても増加している。特別な支援を必要とする子どもが今後増加する可能性もあり、その受入施設を確保しておく必要がある。

